

平成二十八年 論語に学ぶ人間学セミナー

好評を受けて今年で六年目に入った論語セミナー。今年からは、「仮名論語」に加えて、「男の風格をつくる論語」（伊與田 覺著 致知出版社）をテキストに学んでおります。後半の講義は、三木英一先生の人生を熱く語っていただき、本物人間に学ぶセミナーとして十二月までの講座となっています。いつからでも参加できますので、別添お申込書にて申し込みください。

三月例会の内容を少しだけ紹介させていただきます。

始まりは、論語の素読からです。ひらがなを懸命に追いかけていくのが始まりですが、参加された約八十名の方が声をそろえての朗読は素晴らしい響きとなって会場のホールを真剣な学びの場にしていきます。

仮名論語 顔淵第十二

こつきふくれい 克己復礼

し のたまわ おのれ か れい かえ じん な
子曰く、己に克ちて禮に復るを仁と為す。

顔淵という弟子が先師（孔子先生）に仁について問いかけた場面。

「私利私欲に打ち勝って、社会の秩序と調和を保つ礼に立ち戻るのが仁である。」

論語の中でも「仁」については、人間が大事にする心の在り方として説かれており、いろんな場面が出てきます。二千五百年も前から人間は同じように悩み、迷いながら生きてきたことが分かります。孔子先生のアドバイスが現代を生きる私たちにも納得できるのですから、不思議です。

「男の風格をつくる論語」（伊與田 覺著 致知出版社）

第一講 孔子の人間的魅力をつくったもの

優れた立派な人物になるために、切磋琢磨していかねばならず、そのことを昭憲皇太后は、「おこたりにて 磨きざりせば光ある 玉も瓦にひとしからまし」と歌われています。

先生から、金剛石の歌の紹介がありました。昔は、楽しく歌って同時に教えを説いていたのです。

知らないうちに身につけていたということで、教育の原点を見る思いがしました。

三木英一先生の人生講話

にちにち これ こうにち
「日日 是好日」

「碧巖録」にある言葉で、毎日が命輝く充実した日でありたいということ。夏安居と呼ばれる仏僧の修行の際に問いかけられた返答が原典。また、新約聖書のマタイ伝福音書にも同じ意味の言葉があります。

So do not be anxious about tomorrow; tomorrow will look after itself. Each day has troubles of its own.
慣れない英語を先生の主導で、みなさん上手に読まれました。

そのほかにもたくさんエキスがございましたが、それは参加された時のお楽しみとしておきます。皆様も是非、ご参加ください。次回は、四月十三日（水）午後六時三十分からです。